

網干工場見学記

漁師町であった兵庫県姫路市網干に日本セルロイド人造絹糸(現ダイセル)の近代的な工場が建設されたのは1909年(明治42年)の事でした。地名の通り網を干していた町に現れた巨大煙突からモクモクと黒煙には驚いたことでしょう。その煙突は現存していて日本化学会認定の化学遺産第009号となっています。

写真1:建設当時の網干工場ボイラー室



写真2:現在の姿



この網干工場を産業遺産学会の理事長小西先生、理事で兵庫県立歴史博物館の鈴木様、そして松尾副館長の三人で見学してきました。

普段は入ることが出来ない場所を見学することが出来、また煉瓦の専門家二人がいたおかげで思わぬ発見がありました。

一つは手作り煉瓦の発見です。煉瓦を手作りしていた時代にはピアノ線で切り取っていたのですが、途中で止まってしまふことがありました。そのようなことになると弧状の跡が遺ります。

写真 3:ピアノ線の跡が弧状に遺る煉瓦



このような煉瓦が現存しているのは珍しく貴重な発見となりました。

今一つは刻印がある煉瓦の発見です。煉瓦にはどこの会社の製品であるかが分かるように刻印をしているものですが、刻印が無いものも多く、また場所が決まっていないものですから研究者を悩ませることとなっています。

今回発見されました刻印が遺る煉瓦は大阪煉瓦の物で鉄道などにも多く用いられたものです。

写真 4:刻印が遺る煉瓦



このような発見があったものですから二時間ほどが、あっという間に過ぎました。
二人の考えとしては日本化学会と同じように産業遺産学会も産業遺産として認定するという方向にもっていきたいようです。
また産業遺産学会を開催して現地見学会も開きたいとの意向です。実現させたいものです。
今回の意義ある見学に貴重な時間を割いて協力してくださったダイセルの隅田様、伊藤様、OBの福田様に感謝の意を表して締めくくらせてもらいます。